

# 〔西脇市立西脇病院初期研修プログラム〕

## 1 研修プログラムの特色

西脇市立西脇病院は、兵庫県北播磨地区に位置し、災害拠点病院、救急指定病院（ヘリポートあり）、地域がん診療連携拠点病院などの認定を受けています。

研修を通じて、多くの急性期疾患に対応できる総合診療医の育成を目指します。産科、小児科も院内研修可能です。症例は多く研修は充実しており、ストレスのない研修環境を準備し、研修医の希望を入れ何事にもフレキシブルに対応しています。各研修医師の机の上に配布されたPCでUpToDate®、Procduros CONSULT 可能です。

## 2 臨床研修の目標

研修医は、特定の専門分野にしばられることなく、全人的なプライマリー・ケアを実践する必要があり、将来専門分野に進んでも、必要な診療に関する基本的な知識、技能及び態度の習得を目的としています。

初期研修医の到達目標

- (1) 臨床医として幅広い知識、技能、態度及び教養を積極的に身につけ、自ら学んでゆく学習感を養うこと
- (2) 予防医学、健康増進活動から社会復帰、リハビリテーションまでを念頭においた基本医療計画を立案できる疾病観念を養うこと。
- (3) 医療は住民への奉仕であり、医師とは奉仕する職業であるという崇高なヒューマニズムを身につけること。
- (4) 頻度の高い疾病や外傷の処置ができること。
- (5) 救急患者の応急処置ができ、専門医に紹介できること。
- (6) 老人、障害者などの介護もできること。
- (7) 患者の状態に応じて、他科または指導医に紹介できること。
- (8) 診療録を正確に記録し、伝達申し送りができること。
- (9) チーム医療の中で、協力して診療ができること。
- (10) 患者およびその家族との信頼関係を確立できること。

## 3 アクセス

- (1) 自動車利用

中国自動車道（滝野・社IC）→国道 175号線 8 km（10分）

- (2) 公共交通機関

ア バス利用コース

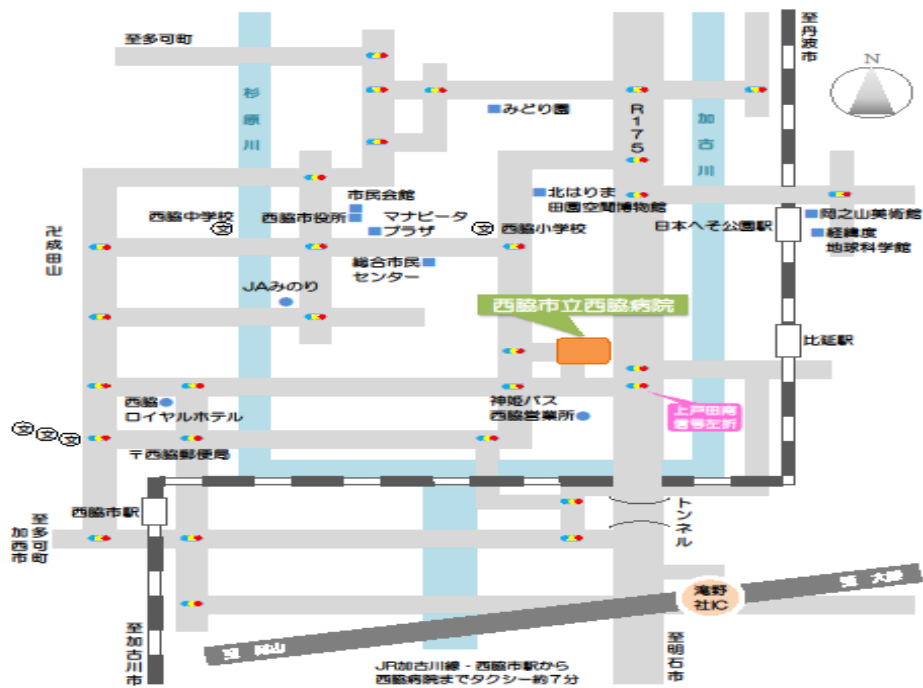
J R 新大阪駅から神姫バス（西脇行き）約60分

J R 三ノ宮駅から神姫バス（西脇行き）約60分

イ 電車利用コース

J R 神戸線「加古川駅」乗り換え J R 加古川線「西脇市駅」下車（加古川駅から約40分）

J R 西脇市駅から神姫バス（西脇病院行き）約10分



#### 4 生活・食事・宿舎

(1) 生活・食事面について

院内には、職員食堂や売店があり、また、院外の近くにもコンビニやレストランがありますので、特に日常生活に不便を感じることはありません。

(2) 宿舎について

病院の敷地内にあり、キッチン、風呂、トイレを完備したワンルームの部屋（オール電化）となっています。

# 〔西脇市立西脇病院 内科〕

## 【研修内容と特徴】

プライマリ・ケア、救急医療を行いながら、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病代謝内分泌、神経内科、腫瘍内科、腎臓内科、緩和医療など各内科専門分野の指導医のもと診療の幅を広げていけるような研修をします。

一人の患者を全人的に診ることを目標にします。

## 【研修の実際】

### ① 一般目標(GIO)

医師として基本的な診療能力、技術、社会的責任感を身につける。

基本的な検査手技、処置を習得する。

急変や救急外来での緊急処置、重症患者の管理に対応できる能力を取得する。

### ② 行動目標(SBO)

患者・家族との信頼関係を築ける。

メディカルスタッフとのチーム医療、地域医療とのかかわりを実践できる。

### ③ 方略(LS)

病棟診療(入院患者受け持ち5-10名)

外来診療(救急外来を含む)

夜間休日の副直

内視鏡、エコー検査

## 【教育に関する行事】

総合内科研修医カンファレンス、各専門内科分野のカンファレンス、研修医向けレクチャー、英語論文抄読会、症例検討会、薬剤説明会、学会・院内症例発表

## 【研修評価(EV)】

基本的に EPOC で評価する

## 指導医

岩井 正秀・小出 亮・松井 利充・佐藤 一彦・武地 美保  
櫻本 博也・木村 祥子・平田 珠希・来住 稔・辰岡 浩樹

## 研修実施責任者

木村 祥子

# 〔西脇市立西脇病院 救急診療部〕

## 【研修内容と特徴】

西脇市立西脇病院は、北播磨医療圏の北部に位置する二次医療機関であり、災害拠点病院にも指定されている。年間約 7000 件の救急患者に対応しており、救急車での搬入は約 3000 件である。症例は一般内科疾患、脳外科疾患、整形外科、外科疾患などが搬入されている。

### 研修目標

- 1) 一次救命処置（BLS）が実施できる
- 2) 二次救命処置（ACLS）が実施できる。
- 3) プライマリ・ケアの対応ができる。

## 【研修の実際】

日勤帯の救急に対しては、各科の指導医・上級医とともに救急外来で診療にあたる。  
副直にあつては、時間外の救急症例に各科の指導医・上級医とともに診療にあたる。

## 【研修評価】

EPOC で評価する

## 指導医

内科：岩井正秀 木村祥子 武地美保 来住 稔 鈴木琢真

脳神経外科：木村 充 柴田裕次

外科：山口俊昌 伊藤卓資

整形外科：佐藤啓三 伊藤 淳

## 研修実施責任者

救急診療部長：木村 充

# 〔西脇市立西脇病院 外科〕

## 【研修内容と特徴】

- (1) 一般外科を学ぶ。
- (2) 消化器外科を学ぶ。
- (3) 外科的な基本的診療能力を身につける。
- (4) 基本的な外科的検査手法・治療法を習得する。

## 【研修の実際】

- (1) 一般目標（G I O）
  - ア 一般診察能力の養成
  - イ 外科診察における倫理性の養成
  
- (2) 行動目標（S B O）
  - ア 外科診察に必要な基本姿勢・態度を醸成する。
  
- (3) 方略（L S）
  - ア 病棟業務
  - イ 当直と救急外来
  - ウ 手術
  - エ 検査
  - オ カンファレンス
  - カ 発表

## 【教育に関する行事】

院内研究発表会の参加

## 【研修評価（E V）】

日本外科学会の「到達目標」に準ずる評価を行う。

## 指導医

山口 俊昌  
伊藤 卓資

## 研修実施責任者

山口 俊昌

# 〔西脇市立西脇病院 麻酔科〕

## 【研修内容と特徴】

麻酔科診療を通して、基本的な患者評価、病態把握を行い、全身管理学の基本を学び、麻酔科診療の基本的な手技のみならず、心肺蘇生に必要な基本的な手技を身につける。

## 【研修の実際】

### ①一般目標（G I O）

医療人として必要な基本的な姿勢、考え方、知識、手技を身につける。

### ②行動目標（S B O）

- 1) チーム医療の重要性を認識し、指導医・他科医・看護師・その他の医療技術者と協調して医療を進める習慣を身につける。
- 2) 術前診察により全身状態、既往歴、服薬している薬剤などから問題点の把握、評価、リスク判定を行う。
- 3) 患者のリスクに適した術前準備、麻酔計画が立てられる。初期研修で、特に患者評価と麻酔計画が重要である。患者の現状を把握し、術中に起こりうる可能性のある事象を予測し、それに対する計画を立てて、麻酔に臨む姿勢が大切である。
- 4) 麻酔器、患者監視装置、筋弛緩モニター、シリンジポンプなどの医療機器の構造・特性を理解し、問題が発生した時に対処できる。
- 5) 静脈確保、動脈確保ができる。
- 6) 静脈麻酔薬、吸入麻酔薬、鎮痛剤、筋弛緩薬の薬理作用と臨床使用法の知識を得て、使用できる。
- 7) マスクによる気道確保、下顎保持をマスターする。気道確保の一つとしてラリンジアルマスクも使用できる
- 8) Airwayscopeなどのデバイスを使用した気管挿管ができる。
- 9) 体液バランスを理解し、輸液、輸血、循環作動薬の適応を理解する。
- 10) モニター上の酸素飽和度、呼気終末炭酸ガスや血液ガスの数値について説明できる。
- 11) 尿量や体温測定から、患者の現状を説明できる。
- 12) 心電図モニターにより危険な不整脈を指摘し、抗不整脈薬が使用できる。
- 13) 典型的な人工呼吸による呼吸管理ができる。
- 14) 術後疼痛管理の重要性を理解し、適切な術後疼痛を選択できる。
- 15) 麻酔記録がカルテ（診療記録）であることを認識し、適切に麻酔記録に記載できる。

### ③方略（L S）

各研修医に対して担当指導医を中心として研修指導に当たる。手術予定患者の術前回診により、患者の現状、既往歴、投薬歴などから麻酔上の問題点を把握し、リスクを評価し、麻酔計画を立てる。その中で、必要に応じて病態生理学、臨床薬理学などを再勉強して、特に麻酔に重大な影響を与える疾患・合併症・薬剤などへの認識を高める。

手術当日朝には患者のプレゼンテーションを行い、具体的な麻酔計画を説明できるよう研修する。麻酔導入時の気道確保、気管挿管は救急蘇生時に必要な基本的な手技になるので、必ず見つけられるように努力する。術中の麻酔管理への基本的な姿勢を理解し、麻酔中の患者が訴えるバイタル変化を把握すると同時に適切な対応ができるように研修する。さらに多角的な術後鎮痛への見識を深める。

麻酔管理に必要な末梢血・生化学・凝固系検査、動脈血ガス分析、胸部等のレントゲン読影、心電

図・呼吸機能・心エコー等の判読を研修する。手技として、静脈確保、気管挿管、胃管挿入、動脈確保、中心静脈確保、各種麻酔器、患者監視装置、シリンジポンプなどの使用法も研修する。

1年目の研修では、手術予定患者の全身状態把握、患者の状況に適した麻酔方法の検討、気道確保、気管挿管、周術期偶発症への対応、術後疼痛管理などが研修可能。更に2年目選択研修では患者への麻酔計画・術中管理のみならず、当科で行っているトップレベルの基礎研究への理解を通じて、将来の医学の進歩に少しでも寄与できる医師の基礎を身につけることも可能である。

### 【教育に関する行事】

毎朝の症例カンファレンス通してのみならず抄読会、研究会などで学術的知見を深め、日本麻酔科学会総会、地方会等へ積極的に参加できるよう指導する。さらに希望者には学会発表の指導を行う。

### 【研修評価】

到達目標チェックリストなどを通して、評価を行う。

### 指導医

植木正明

### 研修実施責任者

植木正明

# 〔西脇市立西脇病院 小児科〕

## 【研修内容と特徴】

- (1) 小児科の特殊性を学ぶ
- (2) 小児保健活動を学ぶ
- (3) 基本的診療能力を身につける
- (4) 基本的な検査手法・治療法を習得する
- (5) 関連他科の診療技術を習得する。

## 【研修の実際】

- (1) 一般目標（GIO）
  - ア 一般診療能力の養成
  - イ 患者・家族教育技量の習得
  - ウ 地域医療との連携・社会福祉資源・小児保健に関する知識の習得
- (2) 行動目標（SBO）

患者のみならずその家族とも好ましい信頼関係を築くことができる小児科医師としての態度を醸成する。
- (3) 方略（LS）
  - ア 病棟業務
  - イ 外来業務
  - ウ 当直と救急外来
  - エ 検査
  - オ カンファレンス
  - カ 発表

## 【教育に関する行事】

院内研究発表会の参加

## 【研修評価（EV）】

日本小児科学会の「小児科医の到達目標」に準ずる評価を行う。

## 指導医

佐伯 啓介

## 研修実施責任者

佐伯 啓介



# 〔西脇市立西脇病院 産婦人科〕

## 【研修内容と特徴】

- (1) 産婦人科の特殊性を学ぶ
- (2) 母子保健活動を学ぶ
- (3) 基本的診療能力を身につける
- (4) 基本的な検査手法・治療法を習得する
- (5) 関連他科の診療技術を習得する。

## 【研修の実際】

- (1) 一般目標（GIO）
  - ア 一般診療能力の養成
  - イ 患者・家族教育技量の習得
  - ウ 地域医療との連携・社会福祉資源・母子保健に関する知識の習得
- (2) 行動目標（SBO）

患者のみならずその家族とも好ましい信頼関係を築くことができる産婦人科医師としての態度を醸成する。
- (3) 方略（LS）
  - ア 病棟業務
  - イ 外来業務
  - ウ 当直と救急外来
  - エ 検査
  - オ カンファレンス
  - カ 発表

## 【教育に関する行事】

院内研究発表会の参加

## 【研修評価（E V）】

日本産婦人科学会の「産婦人科医の到達目標」に準ずる評価を行う。

## 指導医

阿江 孝

## 研修実施責任者

阿江 孝

# 〔西脇市立西脇病院 地域医療（産婦人科・小児科）〕

## 【研修内容と特徴】

- 1 小児科(産婦人科)の特殊性を学ぶ
- 2 小児(母子)保健活動を学ぶ
- 3 基本的診療能力を身につける
- 4 基本的な検査手法・治療法を習得する
- 5 関連他科の診療技術を習得する。

## 【研修の実際】

### ① 一般目標 (GIO)

- 1 一般診療能力の養成
- 2 患者・家族教育技量の習得
- 3 地域医療との連携・社会福祉資源・小児(母子)保健に関する知識の習得

### ② 行動目標 (SBO)

患者のみならずその家族とも好ましい信頼関係を築くことができる小児科(産婦人科)医師としての態度を醸成する。

### ③ 方略 (LS)

- 1 病棟業務
- 2 外来業務
- 3 当直と救急外来
- 4 検査
- 5 カンファレンス
- 6 発表

## 【教育に関する行事】

院内研究発表会の参加

## 【研修評価 (EV)】

日本小児科学会の「小児科医の到達目標」に準ずる評価を行う。

日本産婦人科学会の「産婦人科医の到達目標」に準ずる評価を行う。

## 指導医等

阿江 孝  
佐伯啓介

## 研修実施責任者

阿江 孝  
佐伯啓介